Q 町長の2期目の町政への抱負は

A 復興・まちづくりの前進のため全力で取り組む

松浦常雄議員

問 町民の期待をどのように受け止めているか。2期目の町政への抱負を伺う。

町長 1期目の4年間、オール国見での支援により、大震災からの復旧復興や元気活力事業など本当に一歩一歩進めてきて、光や元気が見えてきた。復興・再生などの課題はまだ道半ばであり、復興やまちづくりをさらに前進させるため、全力で町政を執行することを強く誓う。

平成29年度予算編成の基本方針を伺う

問 平成29年度の町の予算編成の基本方針を伺う。

総務課長 「復興・絆、交流連携」を基本に、「国見の未来をつくる5つの目標」実現のためにオール国見の精神で取り組む。具体的に、町民の安全安心の確保、農商工業の振興、各種スポーツや文化の振興、幼小中一貫教育の振興、高齢者支援事業の実施、交流連携事業などに取り組むこととしている。

問 来年度は、震災後6年目となり、補助金の削減が心配される。予算編成の裏付けとなる財源の確保は十分か。

総務課長 補助率の良いるよう取捨選択し、国・県支出金の充当できる事業で対応する。また、交付税措置のある有利な起債を充当できるよう努力をしたい。事業を活用でき

道の駅国見あつかしの郷の特徴と集客の工夫は

問 「道の駅国見あつかしの郷」の特徴や他にない優れた点は何か。

建設課長 緊急避難所の機能を持たせているのが第一の特徴。また、里まち交流や観光拠点としての位置づけ、宿泊や子育て支援など多機能にわたる複合施設であることも大きな特徴と言える。

問 森江野町民センターの一部を改修して国見町の産物を活かした6次化製品を作ると聞くが、施設を使って製品を作ろうという個人やグループはどのくらいいるのか。

まちづくり交流課長 出荷組合に加工品部会もあり、少なくとも20名以上は興味を持っていると思っている。食品を扱うため保健所の許可や販売する方の資格等が必要なので、人数が集まれば町での講習会の開催も考え利用者増につなげたい。

問 10月17日の新聞に、伊達市は、国道4号線沿いにイオンモールを核とする東北最大級の商業施設を誘致する体制を整えたと報道した。その施設ができた場合でも、「道の駅国見あつかしの郷」に客が集まる工夫を考えているのか。

着々と工事が進む道の駅国見あつかしの郷

町長 道の駅の立地条件などの優位性や各種事業の経験を踏まえ、町の特徴を出した道の駅にするべく鋭意進めている。そうした上で多くの方が注目する、集客でき得る施設になると考えている。特徴を出すことに十分意を配し、経営の安定化に前向きに取り組む。

Q 町のエネルギー政策の方向性は

A エネルギー政策は国が一元的に担うものである

八島博正議員

問 県は原発事故を受け、原子力発電から水力や風力などの再生可能エネルギーによる発電に方向転換した。町でも公共施設に太陽光パネルの設置を進めているが、今後もこの方向性は変わりないのか。

町長 総合的なエネルギー政策は国が一元的に担うとされている。町としてどのように進めるかの明言は避け、国の状況を見極めながら対応したい。だが、再生可能エネルギーに対して町としてできることについては十分に意識をし、町政に盛り込みながら対応していくことが重要な課題である。

議会でも福島第一原発の現状を確認（東電職員より説明）

問 町長は「ずっと好きです国見町」をオール国見で実現していくと言っている。そのためには町民が国見町に住んで良かったと実感できる町にすることが大切である。特に、他地域や外国から来た人にそう言われるまちづくりが重要であり、町政の原点だと思うが、町長の考えは。

町長 町として未来に向けて維持発展していくためには、国・県、近隣市町村や首都圏などと連携を図ることが必要であり、その延長線上に国際化の問題があると考えている。小さな町では観光交流協会の中に国際部会を作るケースが多い。観光をベースにその一環として国際化があるといったイメージが国見型かなという思いはある。今後、関係機関と調整・連携し、どういったスタンスが望ましいか検討していきたい。

問 近隣にも国際交流協会を立ち上げた自治体がある。中高校生の海外派遣など組織の中で海外の研修をさせながら人づくりをすることも大切だと考えるが、町でも協会を作る考えはあるか。

企画情報課長 町が主催をする海外派遣は、財源や安全性を考慮しなければならないため、主体的に実施することは難しい。国や県、公益的な団体の国際交流へ参加する場合はこれまでの実績に基づき支援することは可能である。その上で、国際交流協会については、さまざまな方々との意見交換や熟度の中で進めていくものと考えている。

問 歴史まちづくりの具体策が見えない。中尊寺ハスや阿津賀志山展望台周辺の整備、案内板の設置など、具体的な取り組みについて伺う。

企画情報課長 中尊寺ハス周辺は、歴史公園として整備できるよう専門家と基本計画の策定を進めている。

阿津賀志山展望台は、防塁の国史跡指定範囲で現状での建てかえは困難であり、長寿命化などの方策を検討する。

奥山家周辺は、建物を活かした景観の整備を考えているが、実施計画はこれからである。

案内板は、補助金などを活用し年次的に整備を検討していく。